

恩師のいま



伊勢田 善昭 先生

ISEDA YOSHIAKI

小学校

1967年4月1日～2007年3月31日

昨年6月に喜寿(77歳)を迎え、介護も受けず、認知症にもならず健康で元気に過ごしている。追手門学院小学校に縁があって22歳の時に奉職し、62歳で退職するまで、追手門一筋40年間(担任として20年、総務・教頭・校長として20年)全力で走り抜けた。

今思い起こせば、着任当時は若さにまかせて一生懸命のあまり行き過ぎたことも多くあったが、保護者の方々の若い先生を育てるといふ暖かい目で見守って頂いた。このようにスタートして、現在の教育事情と違った良き時代に、多くの楽しい思い出と共に充実した教員生活を過ごさせて頂けたと思う。

元小学校校長の伊勢田善昭先生から、1700文字を超える長文の原稿をご送付いただきました。担任時代の各学年ごとの思い出や、教頭先生・校長先生として取り組まれた新校舎建設などの思い出、同総会での卒業生との再会や、現在の趣味であるゴルフのこと(ホールインワンやエイジシュート、海外遠征の様子など)を詳しくご紹介くださっています。全文をホームページに掲載させていただきますので、ぜひご覧ください。



小椋 孝士 先生

OGURA TAKASHI

大手前中・高等学校

1968年4月1日～2005年3月31日

グレタさん、近くは中村涼夏さん、若者たちから希望と元気をもらっている。退職後は、西行や芭蕉さんよろしく、あちこち放浪の旅を。そんなことを夢想していた。ところが、今は多忙な日々。

在職中、個性あふれる子ども達にめぐりあい、多くのことを学んだ。フレーベルは云う「さあ、子ども達のところへ行こうではないか」と。大人目線の価値観で、個性豊かな人格に対応することはできない。子ども達とのかかわりの中で、若い時に想定していた隠居生活とは、全く異なるものとなった。悪戦苦闘のストレスはあるものの、充実したご隠居さんの生活。吾は暗愚なれども、せつかく子ども達から学んだ方法論。これを活かさない愚は避けたい。愚か者には愚か者なりの、分に応じたそれなりの生き方がある。それにしても、人生はあまりにも短い。生きている間にどれほどのことができるのか、全くわからない。しかし、子ども達からの賜わりものを、何とか活かしたい。時間の許すかぎり、挑戦してみよう。

78歳 2022年3月末。



山口 優 先生

YAMAGUCHI MASARU

中・高等学校[茨木]

2009年4月1日～在職中

追手門での教員生活は、57期高2の副担任から始まり、今年で16年目になります。「3年間持ち上がり」という幸せな担任生活も経験させていただきました。当初は、経験も浅いため失敗もありましたが、生徒・保護者の温かい理解や、先輩の諸先生方の丁寧なご支援、ご指導のおかげで、何とか教員として成長することができました。どの期にも思い入れがあり、皆さんと過ごした日々は本当に懐かしく、今でも鮮明に覚えています。

2019年度からは3年間、70期生の学年主任に着任しました。大きな課題を抱えてのスタートでしたが、多くの先輩学年主任の先生方から「先読みの大切さ、指導計画の重要性」、「傾聴する大切さ、思考の重要性」、「親目線の大切さ、家庭の教育観への理解」等々を教わり、先輩の姿を必死でまねて過ごしました。学年主任としての3年間を終え、大切なのは「この経験をどのように活かすか」だと強く感じています。

まだまだ教員生活の折り返しにも達していない私ですが、これからも追手門学院のため、卒業生の皆さまがいつまでも誇れる「母校」であるべく精進してまいります。

誌面の都合で全文の掲載ができておりません事をお詫び申し上げます。

以下のリンクから山桜会ホームページにアクセス頂き、ぜひ全文をご覧ください。

<https://yamazakurakai.com/archives/category/column/topics/teacher-new>

